新型コロナ禍における峰ヶ丘同窓会学生支援

今年４月、大学当局は新型コロナ禍によって経済的に困窮した学生に対して、緊急学生支援を実施し、全学で１次募集に465名の応募があり、287名の学生に対して支援を行いました。そのうち農学部からは74名の申請があり41名の学生が支援を受けました。

峰ヶ丘同窓会では、国や大学からの支援に漏れ、修学継続が困難になっている学生会員に対して、『学生支援制度』（2003年６月28日制定）を活用し、経済的支援の補完を行うことにしました。

応募期間は、後期授業が始まる10月に合わせて支給できるように、９月１日～18日としました。これには、学費支弁者の収入激減や、アルバイト収入の激減・途絶など、深刻化する経済的打撃を受けている46名の学生から応募があり、９月25日常任理事会にて審査を行いました。その結果、この厳しい状況下、懸命に生活に向き合う学生の声を聞き、46名全員に総額300万円の支援を行うことにしました。

また、大学当局から、「後期の緊急支援は行うものの、学生の経済状況に直接的に支援する給付型の奨学金について原資の限界がきており、大学として多方面に支援をお願いしている」との報告を受け、農学部同窓会としては、今後さらに支援が必要となる学生をフォローするために、その使途を明確にすることを条件に、大学へ200万円の支援をすることを決めました。

届けられた「学生支援申請書」

退職のご挨拶

森林科学科　森林工学研究室
田坂　聡明（林学25回卒）

コロナ被害や豪雨災害などの未曾有の出来事が続き、例年以上に鬱陶しい梅雨の季節をむかえておりますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて私、平成４年に着任してから27年間の歳月が過ぎ、本年３月をもちまして定年を迎えることとなりました。この間、多くの先輩方や、学生諸氏、技術職員、事務員の皆様方と宇都宮大学という共通の空間を共にする幸運を得て、なんとか元気に楽しく過ごすことが出来ました。これもひとえに、講義、卒業論文などで学生諸氏と接し、常に新たな知識を得ることが出来たこと、演習林実習、ソフトボール大会などの交流により、気を若く保てたおかげと考えております。また、さすがに60過ぎてからはしんどいと感じましたが、学生や技術職員の方々と演習林の山の中を歩き回れる特典を得、演習林の変遷を常に身近に感じていられたことが、体力維持、無事の退職に繋がったと感じております。この場を借りて、お世話になった皆様にお礼申し上げるとともに、皆様の今後のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

最後になりますが、学生時代からを合わせて40年にわたる宇都宮大学・演習林の変遷を見てきたものとして現在の宇都宮大学に対する感想を述べると、かつてのバンカラな気風、フランス式庭園での酒宴、大学紛争などに象徴される、戦後の国立大学が持っていた大学の自治権・自由な文化、学問に対する熱い思いのようなものは時代とともに薄められ、学部・学科の改変や大学の独立法人化などをとおして、資本主義的な競争原理に引きずられた差別化や順位付け、恭順姿勢のみを求める大学への転換など、大学本来の姿勢とは違った方向へ進みつつあるような印象を受けます。農学部100周年を間近に控える中で、宇都宮大学の自由な気風と農学部の気骨が次世代に引き継がれることを心より祈念して、挨拶に代えさせていただきます。お世話になりました。